



オマケ編

メンタルピクチャー

心の中に一つの風景がある。穏やかで暖かい陽の光の照らす中、彼の愛しいと思つた者達が皆、微笑んでいる。彼等は皆若く、むしろ幼かった。その分、未来への希望を無限に持つていた。そしてそれぞれに似合いの笑顔で彼等はそれぞれに微笑んでいる。それは彼の好きな彼等の顔だった。そこに満ちているのは紛れも無く温かい空気だった。

温かい笑顔に囲まれて、彼も彼らしく微笑んでいた。ひどくぎこちない笑顔だが、そこに造作はなかった。素の彼が覗かせる笑顔は決して整つたものではないが、それ故に親さのある笑顔でもあつた。そこにあるのは確かな信頼、ヒトとヒトとの繋がり、温かさは時に何より強固なものであり、それ故に揺るぎ無く確固たるものとなる。

彼の愛した者の全てがそこで輝いていた。もし運命の行程が引き戻せるものならば、いつそこからやり直したい、それができたら、少しは違ふ未来としての現在があつたのだろうか。そう思わせるほどに、その光景は無限の魅力を持つている。

そこには夢があり、希望があり、生そのものの輝きがあつた。それ以上に暖かく優しい風景を彼は他に知らない。

空気のような、ささやかでかけがえのない幸福を頬に、腕に、全身に感じる。彼は我知らず、笑いの形に唇の端を歪めた。

視界の隅で紫煙が揺れる。それを機に光景は暗転の如く一変する。そこにある現実とは重い空気と、無情な事実により構成されている。

嗚呼夢か、そう思うアンドロココの心は乾いていた。ひび割れていると言つても良かったかもしれない。今、ここには彼しかない。

それは夢だった。そのような光景は歴史のどこにも存在できず、ただの彼の夢想にのみ存在を許していた。現実には聖魔は争い続けている。それは終わりの無い道を徒に歩む様に似ている。ただ、我と彼の命をすり減らすが如く、相手の生命を一つでも多く奪う為だけに大義を失つていくように見えなくもない。それならばいつその事、共栄の道を選んだ方が良くとも今の彼は思っている。今の争いが続くばかりの状況は、どちらにとつても無意味で無価値だ。

もし、とまで思い、そこで不快な感触に胸を押し掴まれた。己の生まれた意味と、幼い時分の未熟な正義を思つた。今の彼が思う事を、当時の己に思う事が出来るだろうか。当時の己に、そこまで広い視野は無かつた事は、当の己が

一番よく分かっていたし、己を生み出したものと言えば、争いに倦み疲れた天使の願いであり、それは決して大層なものでもない。

そのような存在理由の己であっても、夢想せずにはいられない。存在しない筈の柔らかな幸せの光景を。温かいヒトの手の繋がりを。吸い込んだ煙草の煙がやけに苦い。馴染んでいた筈のものが一瞬、ひどく不快に感じた。

「…それが俺の弱さなのだろうな」

漸く眩いたその声はひどく乾いていた。その己を彼は低く晒った。微かな晒い声に、紫煙だけが揺らぎ、視界が曇った。

こんにちは、もしくは始めまして。

或いは、お久しぶりです、さわ・なです。

この度は、拙本「友情愛情ノスタルジア」をお手に取っていただきまして、真に有難うございました。

前書きも目次もなく本文が始まり、後書きも無いので、こんなところで出張版後書き及び、その代わりにペーパー？です。

「友情愛情ノスタルジア」は、2006年から2007年に掛けて、ちくちくと出してきたコピー誌のシリーズで、3冊まで出ています。

自分が同人を始めたきっかけでもある、18弾前後の話を何時か書く！と、言う志はあるのですが、何せあれだけのキャラですから、少しずつ練習しないと動かせないというので、色々なキャラを書いてみようじゃあ、無いか。

と、いうことで書いている話でした。

どうしても嗜好的に、ロココ×マリアなので、その要素を入れてしまいがちになるので、再録にあたってはロコマリ色は敢えていれませんでした。

あと、時間とページ数の関係で一緒に入れられなかった「いっぱしの僕等」と、「虹の彼方」を一緒に載せたかったので…まあ、そんなところです。

個々の話については、言い訳とか色々したいのですが、当時の気持ちを忘れてしまったり、データをなくしてしまっていたりで、上手い事が言えないので敢えてそのままです。改稿も、誤字脱字位で、止めておきました。

ちなみに、「いっぱし〜」と、「鏡中キネマ」、「仮面劇」は、元データを消してしまったので、印刷したのをスキャナでPDF形式で読み取って、そこから再度、データ化しました…文明の利器って素晴らしいですね。

さて、この「メンタルピクチャー」は、「友情愛情ノスタルジア」を、本として作ろうと思ったきっかけとなった、ショートショートです。しかし、P数の都合上、入れられず。

OVA「ロココ&マリア奇跡」の最後の1シーンが本当に、泣ける位大好きでして、そのイメージです。絶対にありえない景色だからこそ、なける位に切なくて、綺麗なシーンだと思います…多分、シュチエーション的には、ロココの夢というか、妄想なんだろうと思うけれども、そこが良い…って、ダメ？(笑)

まあ、色々ありますが、多少なりとも楽しんでいただければ幸いです。

1本位、書き下ろせればと思いつつ…ごめんなさい。精進します(土下座)。

2008. 10. 10 さわ・な 拝